

事後評価審議資料
街路事業（都市整備課）

○ 街路事業【（都）新所平島線 徳田工区】

- ・ 平成26年度事後評価箇所表 . . . p 1～4
- ・ 説明資料（パワーポイント） . . . p 5～14

平成26年度事後評価箇所表

担当課〔都市整備課〕

番号	4	事業名 (路線名等)	都市計画道路 新所平島線 (徳田工区)
実施箇所	羽島郡岐南町徳田地内		全体事業費 (当初8,000百万円) 8,082百万円
採択年度	平成14年度	完了年度	平成24年度
事後評価の実施基準	全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね1年経過したもの		
事業目的	<p>本路線は、国道21号南を併走し岐阜市南部から羽島郡岐南町中心部までを結ぶ主要な東西道路軸である。現道(市道含む)の名鉄名古屋本線との平面交差部では朝夕を中心に渋滞が発生しており、国道21号など周辺道路も含めた混雑の解消が大きな課題となっていた。また、付近には小中学校があるが、歩道は未整備であった。当該工区の踏切除却(立体交差化)、4車線化および両側歩道の整備により、円滑な走行空間と安全な歩行空間の確保を図るものである。</p>		
事業概要	<p>起終点：岐阜市東川手～羽島郡岐南町徳田 事業延長：1,093m 全幅員：22.0～38.0m 車道幅員：3.25m×4車線 歩道幅員：3.25m×2</p>		
概要図	位置図		
標準横断面図【整備後】			

【整備前】



【整備後】



評価結果

① 住民参加・協働による効果

- 地域住民からなる「住民参加型道づくり委員会」を設置
当該路線の整備にあたり、地域住民と行政が道路整備計画について検討
「あんぜんな道づくり」「便利な道づくり」「やさしい道づくり」を反映
- 地元住民や地元小学校児童に対し、現場見学会を開催
 - (1) 小学校児童に対し、橋梁工事の苦労話や工夫した点等を説明
 - (2) 境川に架かる新橋の名称を地元の小学生に募集し、関心を深めた

② 事業効果

- (1) 踏切部（平面交差）の解消による混雑の緩和
名鉄名古屋本線踏切の除却により混雑を解消
整備前：踏切遮断時間（平日）町道笠松7号踏切・・・約8時間
踏切遮断交通量（平日）3,326（台/日） ※調査H26.2実施
車45台程度からなる渋滞が朝夕中心に発生
整備後：岐阜南濃線～国道22号までの移動時間が3分短縮
（17.6分→14.6分）
- (2) 円滑な道路ネットワーク形成の支援
4車線化により交通容量が拡大され、周辺の東西連絡道路への交通集中を緩和させ、地域間の間交通を支援に寄与した。

調査箇所	H17センサス	H26.5調査	備考
	交通量（台/12h）		
新所平島線	7,670	9,173	1,503増
岐阜環状線	11,363	10,543	820減
参考) 国道21号	52,949	50,022	2,927減

（都）新所平島線の整備後、当該路線の交通量は整備前交通量の約2割にあたる1,503台/12h増加し、北側に併走する岐阜環状線においては、整備前交通量の約1割にあたる820台/12h減少した。国道21号の混雑も緩和傾向にある。

- (3) 安全で快適な歩行空間の確保
当区間整備前は部分的に片側歩道があるのみで、歩行者は車道の路肩部分を通行していたが、両側歩道の整備により、周辺小中学校の児童生徒をはじめとする歩行者の安全性が確保された。
- (4) 費用対効果
○B/Cは、1.5（費用便益分析マニュアルH20年）

③ 環境面への配慮

(1) LED照明の採用による環境への配慮

長寿命かつ低消費電力であるLED照明を橋梁部、交差点部に使用し蛍光ランプを用いた場合に比べて環境負荷を低減

(2) 排水性舗装(車道)と透水性舗装(歩道)の使用

車両の走行に伴う騒音を低減。蒸発作用(太陽熱の蓄熱緩和)による照返しの緩和
透水機能による地下水のかん養

④ 事業を巡る社会情勢の変化

- ・隣接する(都)新所平島線 平成工区が平成22年度より事業化
- ・徳田工区～国道22号接続までの連続的な4車線化への拡幅と踏切の解消を目指し推進中

⑤ 利用者・地域住民等への効果

- ・移動の迅速化及び所要時間短縮
 - ・安全・安心な通行、交通混雑の緩和
 - ・踏切部の解消
 - ・周辺中学生からの意見・・・円滑な通学ができる、所要時間が短くなった
- 約7割の利用者が満足と回答
・・・約8割の利用者が満足と回答

⑥ 対応方針

(1) 今後の事後評価の必要性の有無

今の段階では必要なし

- ・踏切部解消による混雑緩和、安全な歩行空間の確保等、事業効果を確認
- ・住民アンケートで、7～8割程度の「満足」を確認

(2) 改善措置の必要性

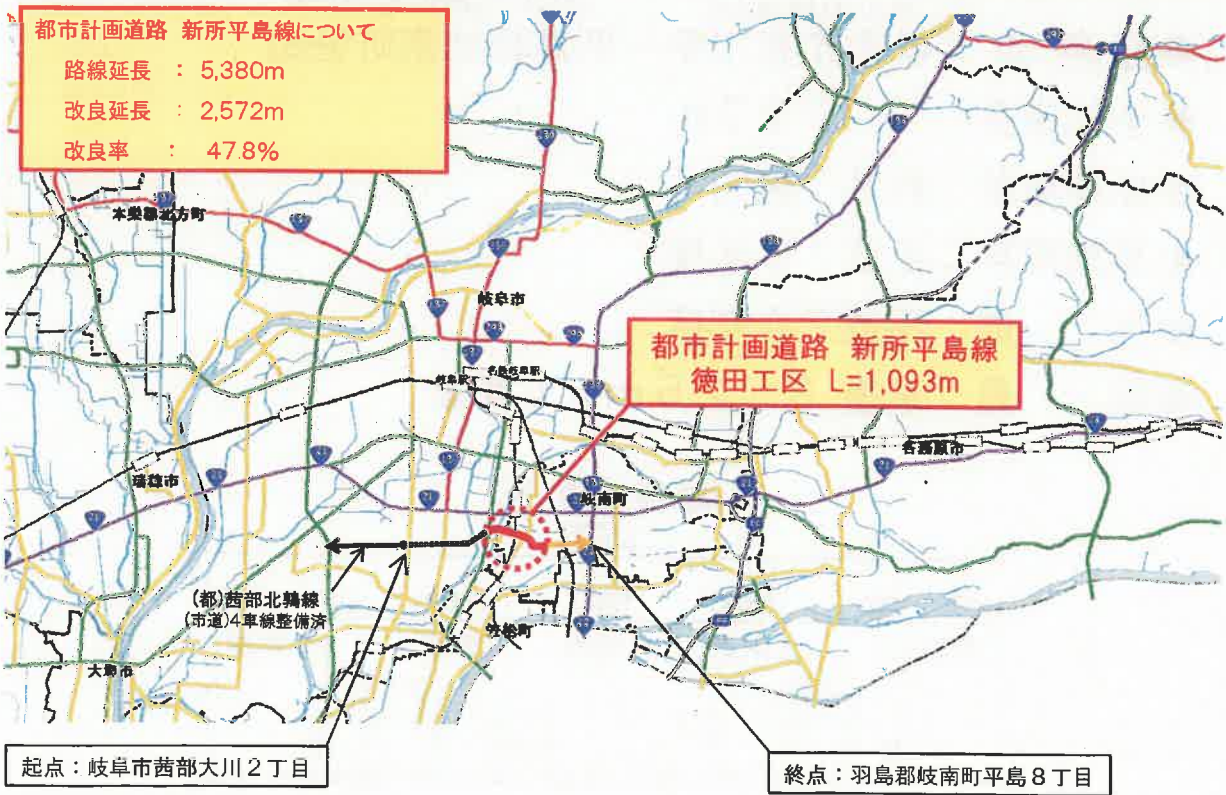
今の段階では必要なし

(3) 新規事業への適用すべき留意点

事業期間が長く早期の効果発現が難しい事業については、今後も引き続き、段階的な整備目標を立てながら事業推進を図る。



位置図①



位置図②



写真①



写真②



写真③

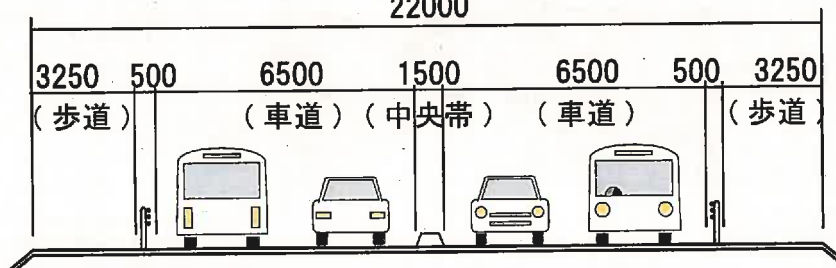


2

事業概要

- ◆起 終 点 : 岐阜市東川手ぎふしひがしかわて～羽島郡岐南町徳田はしまぐんぎなんちょうとくだ
- ◆全体延長 : 1, 093 m
- ◆総事業費 : 約 81 億円
- ◆事業着手 : 平成 13 年度
- ◆完 成 : 平成 24 年度
- ◆幅 員 : 車道 3.25 m × 4 車線

標準横断図
22000



3

住民の参加・協働による効果

◆事業中の住民参加効果

- 「新所平島線とまちづくりを考える会」の設置により、地元意見を反映
- 地元住民に対し、道路改良や橋梁工事の現場見学会を開催(全5回)

○新所平島線とまちづくりを考える会の目的

当該路線の整備にあたり、地域住民と行政が道路整備計画について検討(平成12~13年 委員会3回開催)

↓
地元意見を反映

- ・歩道橋の設置
- ・高架橋部分の地下道(防犯ペル設置、警察の巡回)

現場見学会開催風景



地元小学生に名称を募集した新橋(厚南大橋)

○現場見学会等の開催

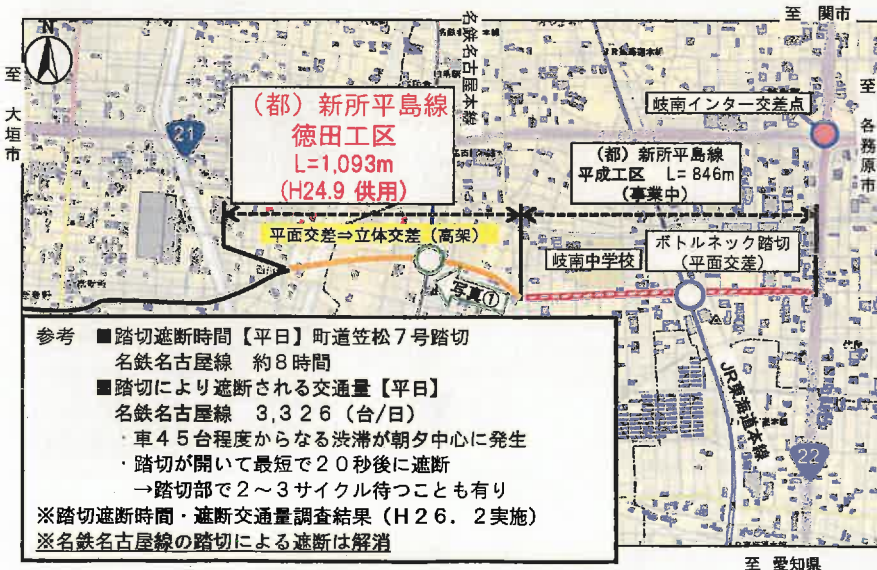
- ・地元住民に対し、現場見学会を開催
- ・地元小学生を対象に橋梁工事の苦労話や工夫した点等を説明
- ・地元の小学生から、境川に架かる新橋の名称を募集し決定

4

事業の効果①

踏切部(平面交差)の解消による混雑の緩和

- 名鉄名古屋本線踏切部(平面交差)の立体交差化により混雑を緩和
- 当該区間の所要時間短縮により地域間交通を支援



写真①:名鉄名古屋本線立体交差(整備前)



写真②:名鉄名古屋本線立体交差(整備後)

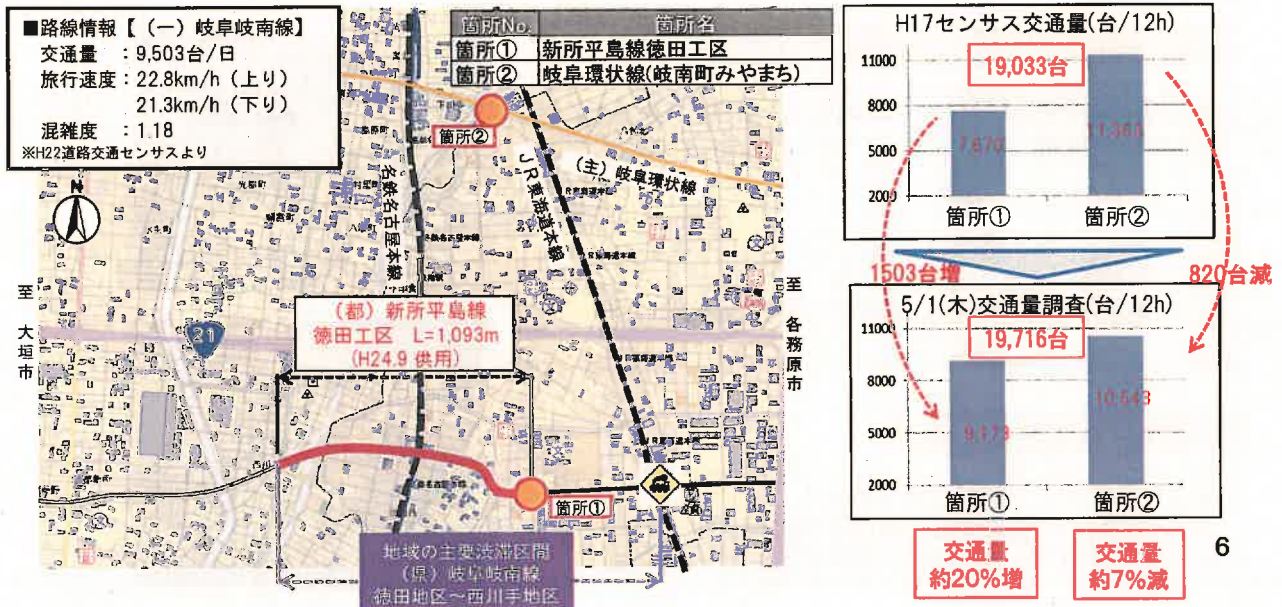


5

事業の効果②

4車線化(容量拡大)による円滑な道路ネットワーク形成の支援

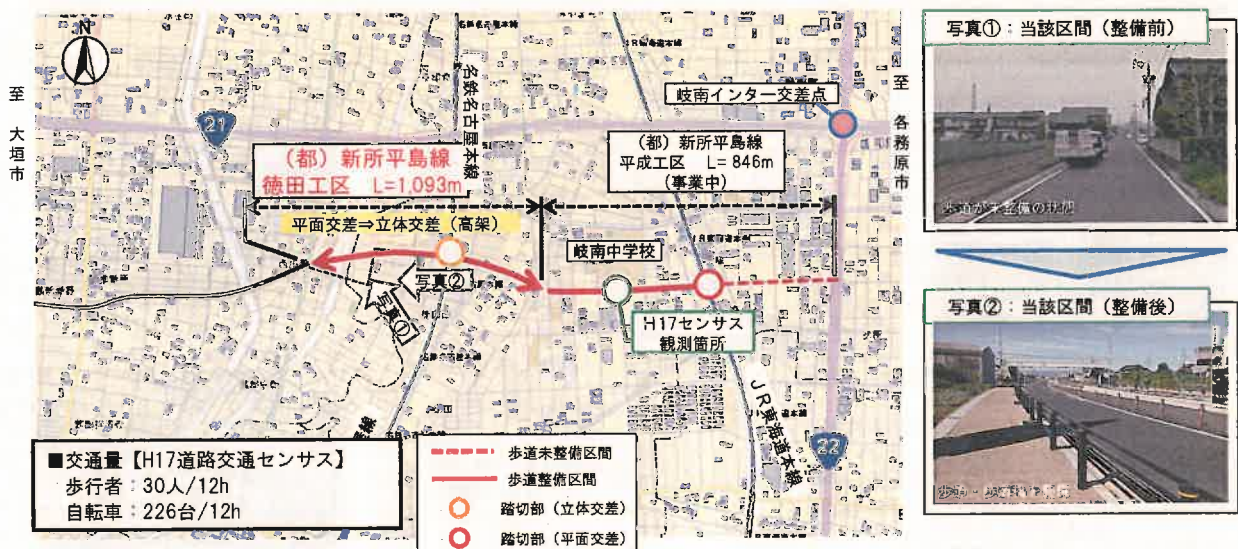
- 周辺道路への交通集中を緩和し、円滑な交通を支援
- 東西間のアクセス性を向上し、円滑な道路ネットワークを形成



事業の効果③

安全で快適な歩行空間の確保

- 当該区間整備前は、歩道が整備されておらず、歩行者・自転車の通行が危険
- 自転車歩行者道を整備し、歩行者・自転車の安全性を確保



自転車歩行者道を整備により、歩行者・自転車の安全性を確保

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約92%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約7%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.5(\text{全体})$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

8

環境面への配慮

◆ LED照明の採用による環境への配慮

- 長寿命かつ低消費電力であるLED照明を橋梁部および交差点部に採用
- 蛍光ランプを用いた場合に比べ環境負荷を低減



9

環境面への配慮

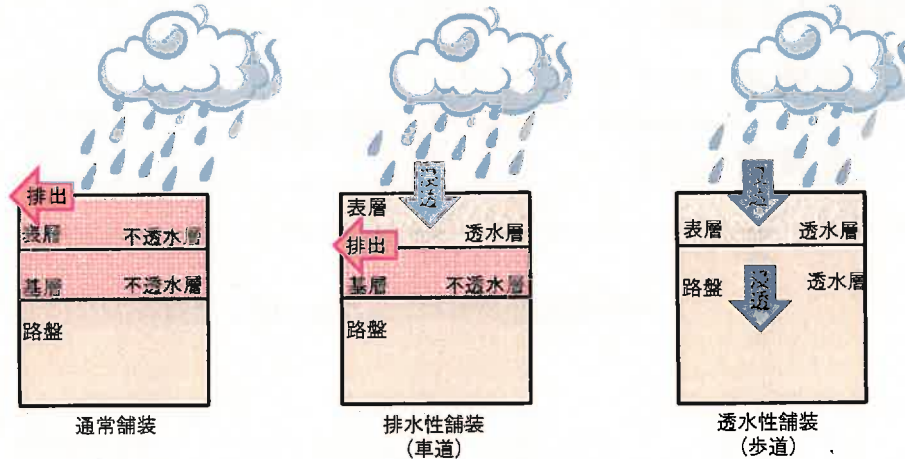
排水性舗装(車道)と透水性舗装(歩道)の使用

排水性舗装(車道)

- 車両の走行に伴う騒音を低減

透水性舗装(歩道)

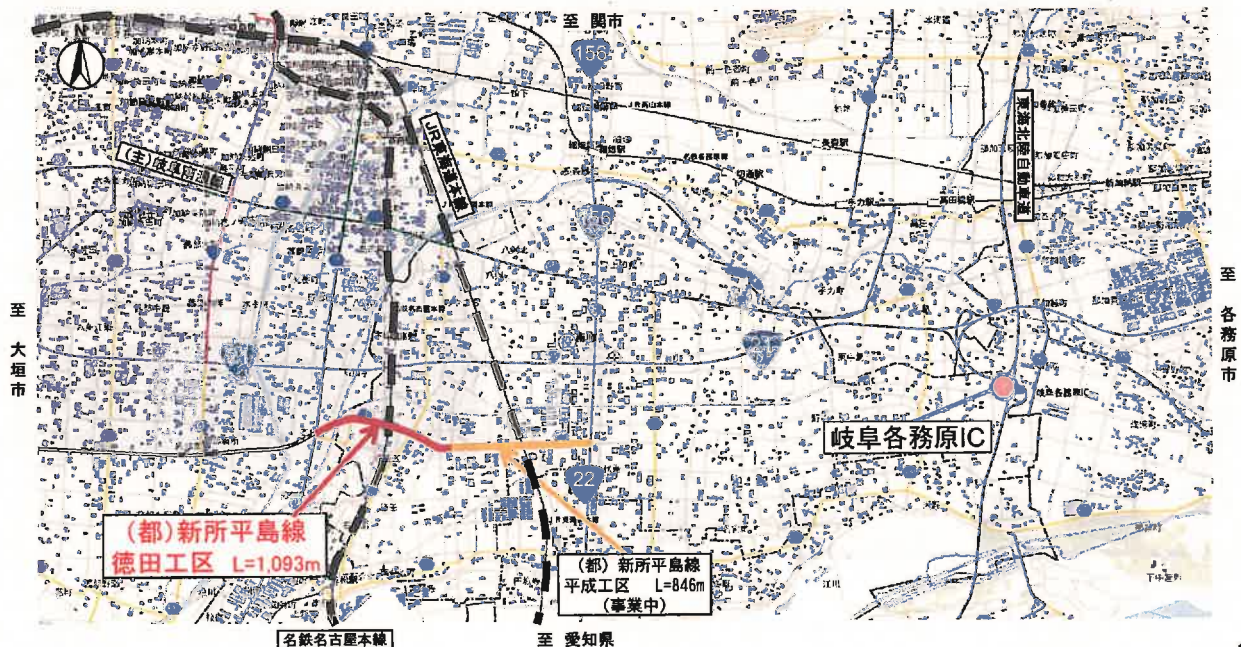
- 蒸発作用 (太陽熱の蓄熱緩和) → 照返しの緩和



10

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- (都)新所平島線(平成工区)が事業化(平成22年度~)
- 2車線⇒4車線への拡幅、踏切(平面交差)の連続的な解消

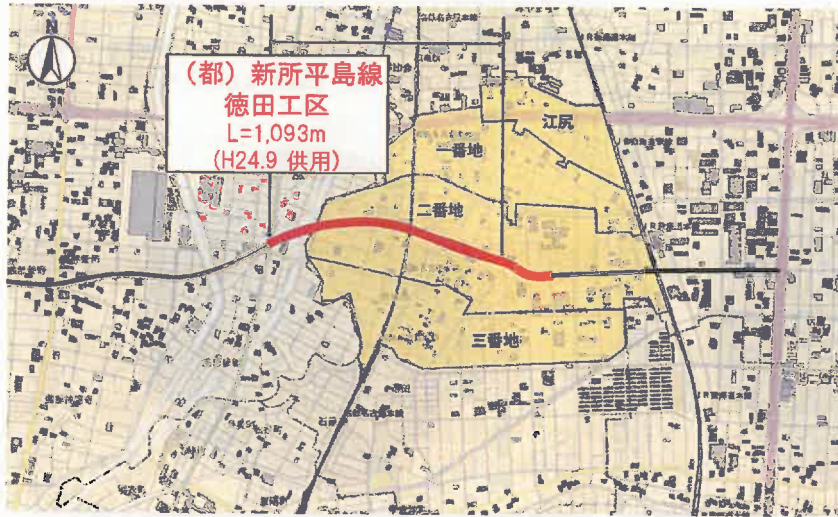


11

地域住民等への効果

アンケート調査地区の決定

- 当該路線は、沿線自治会区の住民が多く利用していることからアンケート調査地区は、当街路線沿線の4自治会区を選定
- 岐南町内の約1,000世帯（名）にアンケートを実施



◇ アンケート調査対象内訳

自治会区	世帯数
1番地	348
2番地	205
3番地	307
江尻	114
合計	974

回収 243名
(回収率 25%)

12

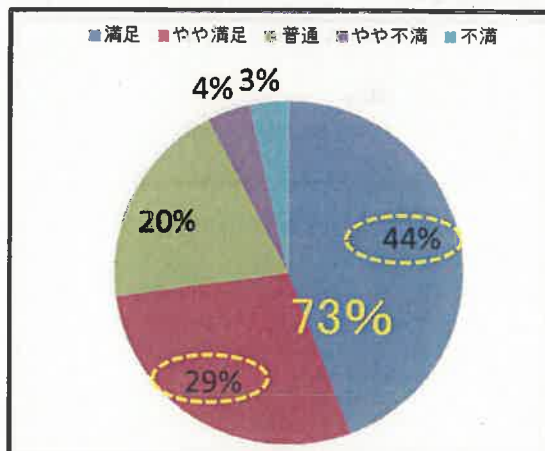
地域住民等への効果 ①

アンケート調査結果（事業に対する満足度）

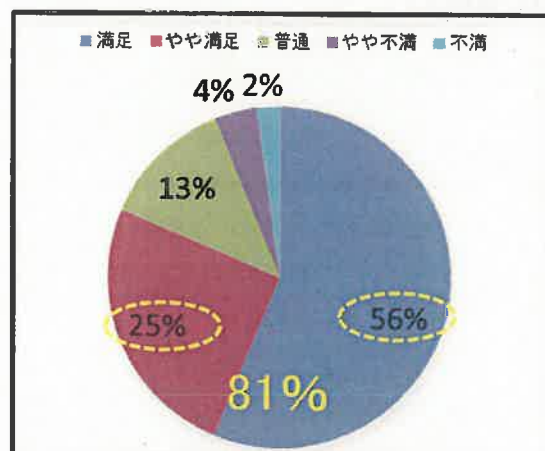
- 安全・安心な通行に関して、約7割の利用者が満足と回答
- 踏切部の解消に関して、約8割の利用者が満足と回答

当該路線沿線4自治会区アンケート調査結果

車と人の分離が図られ、安全に安心して通行できるようになった



混雑している踏切部を走る必要がなくなり、安全に安心して通行できるようになった



13

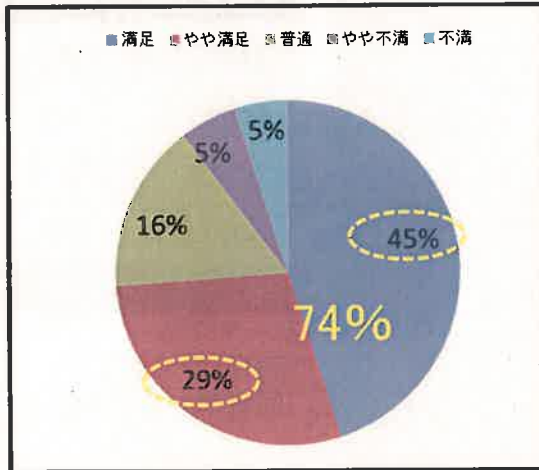
地域住民等への効果②

アンケート調査結果（事業に対する満足度）

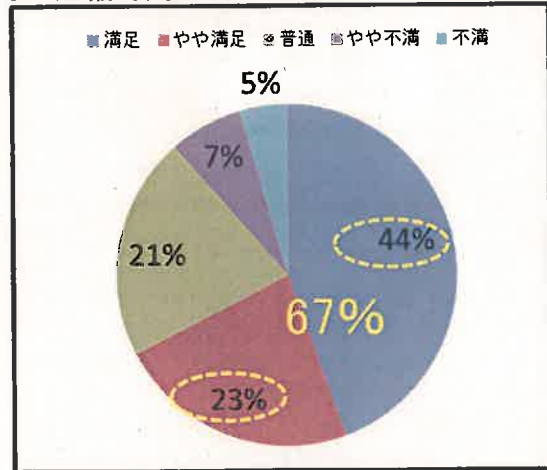
- 移動の迅速化に関して、約7割の利用者が満足と回答
- 所要時間短縮に関して、約7割の利用者が満足と回答

当該路線沿線4自治会区アンケート調査結果

移動が速く便利になった



主な目的地までの移動時間は短縮されたか
その短縮時間に満足か？



14

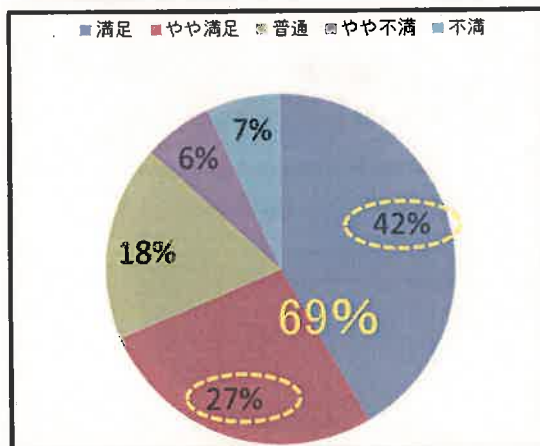
地域住民等への効果③

アンケート調査結果（事業に対する満足度）

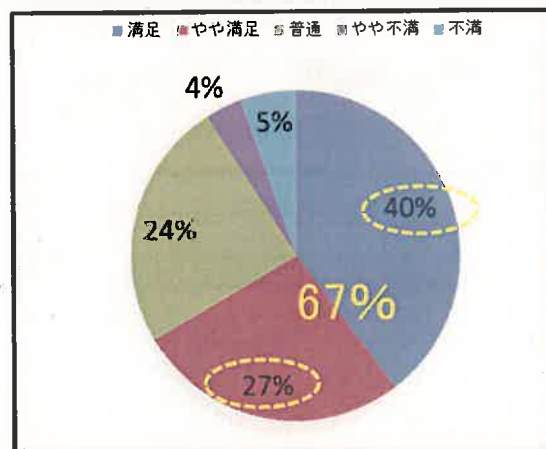
- 当該区間の整備により、約7割の利用者が満足と回答
- 渋滞道路の回避に関して、約7割の利用者が満足と回答

当該路線沿線4自治会区アンケート調査結果

当該区間が整備されたことによる満足度は？



渋滞している道路を利用する必要がなくなった



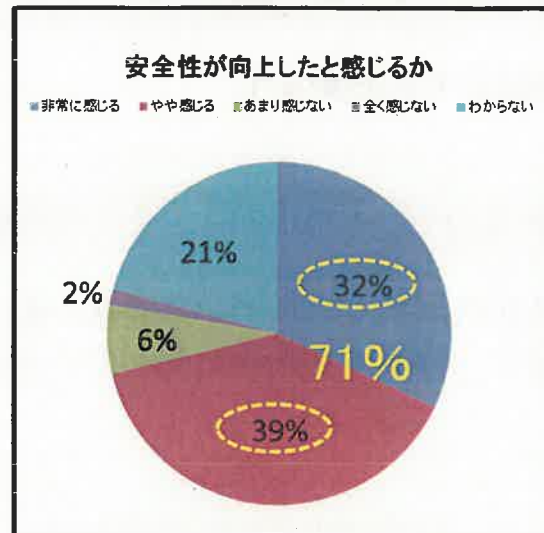
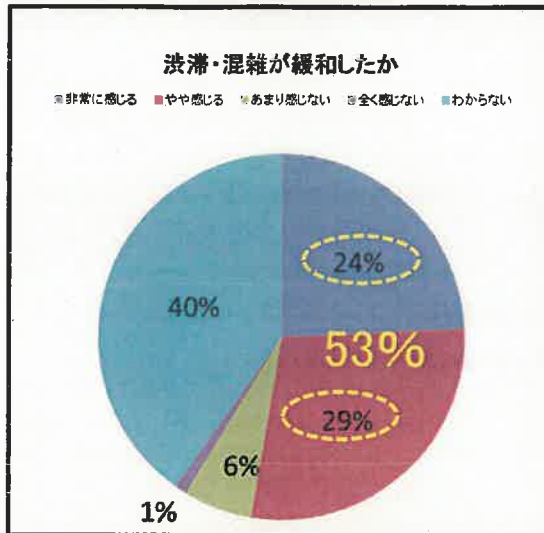
15

道路利用者等への効果①

WEBアンケート調査結果（広域的な利用者に対する効果）

- より広域的な道路利用者に対する効果を把握するため、岐南町近隣市町の利用者に対しWEBアンケートを実施（回答数：528サンプル）
- 5割～7割の回答者が渋滞の緩和や安全性向上に効果があったと回答

WEBアンケート調査結果



16

道路利用者等への効果②

ヒアリング調査結果

- 両側歩道の整備により、通学児童の安全性が向上
- 踏切の解消により円滑な走行が可能、利便性が向上



◇ A小学校からの意見

両側に歩道を配置することで、通学児童の安全性は非常に向上した。
歩道境界に、縁石ではなくガードパイプのような高い施設を設置しているため、当該路線沿線に通学時の集合場所が位置している箇所については教員側としてはとても安心である。
当該工区沿線には岐南中学校が位置しており、卒業生等に話を聞くと、円滑な通学ができる、所要時間が短くなったとのこと。
教員が出勤の際に当該路線を利用するが、踏切もなく円滑な走行が可能となり利便性が向上した。

17

対応方針(案)

◆今後の事後評価の必要性

今の段階では必要なし

- 踏切部解消による混雑緩和、安全な歩行空間の確保等、事業効果を確認
- 沿線住民等へのアンケートでも、6割以上の「満足」を確認

◆改善措置の必要性

今の段階では必要なし

◆新規事業への適用すべき留意点

事業期間が長く早期の効果発現が難しい事業については、今後も引き続き、段階的な整備目標を立てながら事業推進を図る